

事例10-2

取組名	島高松未来づくり検討会 ～会議の見える化・話し合い文化の変革～		
町会名	しまうちしまつかまつ 島内島高松町会（島内地区）	町会 データ	・人口／1,445人 ・世帯数／722世帯 ・高齢化率／26.5% ・町会加入数／534世帯 ・常会数／5常会 ・隣組数／58組
取組概要	○ 役員選出方法の見直し等、町会内の諸課題を解決するため、「島高松未来づくり検討会」を発足 ○ 毎月「町会だより」を発行し、役員会の結果や行事の様子などを発信		

背景・課題

- ・ 町会の役員体制は、町会長、副町会長2名、公民館長・副公民館長、常会長5名の十役。
- ・ 十役会で主要事項を協議し、各常会3名ずつ選出される審議員と十役で構成される審議会において、承認決定している。
- ・ 現町会長就任（R2年）以来、町会内の諸課題解決に向けて話し合う場について、検討を行ってきた。

経過・取組内容

- ・ R6.10月、十役、審議会審議委員、専門部長、顧問（町会長経験者）の約40名で「島高松未来づくり検討会」を立ち上げた。
- ・ 会議は9回開催。課題を共有するとともに協議を重ねてきたが、R7年度末、役員の2年任期に合わせて検討会は一区切りとし、報告書をまとめることとした。
- ・ 住民アンケートを実施したところ、高齢者支援について約260名から回答あった。
- ・ 80歳以上は免許なしが多く（計68人）、買物・通院は家族による送迎が最多。移動支援や生活支援（ごみ出し、雪かき、庭木剪定、草取り等）のニーズが高く、支援体制構築が必要との報告書をまとめ、次期体制で検討していくこととした。
- ・ 会議では、執行部側が一方的に会議資料を説明することはできるだけ避け、グループ討議や

ワールドカフェを行うなど、会議運営の工夫に努めた。

- ・ 検討会の結果、常会から選出する役員については、常会の責任において一定のルール化を進めることとした。常会内の話し合いによって、一定の成果を出した常会もあれば、従来どおりでよしとする常会もあった。
- ・ また、町会に対して住民が無関心なのは、情報発信がないからだと考え、毎月の「町会だより」の発行にも力を入れている。編集委員会などは置かず、町会長が役員会の審議結果や行事の様子などをA4版両面にまとめて発行、回覧している。

成果・今後の展望等

- ・ 「町会だより」については、「毎月楽しみにしている」と言われることも増え、情報発信、周知啓発が強化できている。
- ・ 検討会の営みにより、町会内の課題を話し合いによって解決していく流れができつつある。
- ・ 町会をより良いものにしていくためには、役所や外部の力に頼らず、町会自らが会議の見える化や話し合いの文化の変革に努め、住民同士の関係構築を図っていく必要があると考える。

【ポイント】

- ▼ 住民同士の対話を重視し、会議の見える化や話し合い文化の変革を促進
- ▼ 積極的な情報発信で、住民の関心を醸成